

日本基督教団 関東教区

# 関東教区通信

No.181

2025年12月7日

発行者 日本基督教団関東教区  
事務所 総会議長 熊江秀一  
〒330-0844 さいたま市大宮区下町3-39  
電話 048-647-0862  
ファックス 048-647-0978  
郵便振替 00140-3-67727  
Eメール kantou@air.ocn.ne.jp  
URL <https://uccjkanto.holy.jp/index.htm>

## 光あるうちに光の中を歩め

ヨハネによる福音書12章36節

守谷伝道所牧師 安東 優<sup>まさる</sup>



おろし  
六甲<sup>おろし</sup>嵐で身が凍る12月、結婚5年目のクリスマスが懐かしい。23日は白いマントの子どもたちとローソクを手にキャロリングで子どもの家を巡る。プレゼントのお菓子や果物は新年の茶会のお楽しみ。24日クリスマス当日は市民ホールを借りて聖誕劇を70~80名の

生徒と楽しんだ。家族も子どもの笑顔をカメラに映す。生徒は白一色の舞台にダンボールの飾りつけ、先生たちの労苦がうかがえる。不織布の白い衣装が大活躍、マリアやヨセフ、天使もイエスさまも白い衣装だった。幼稚園入園前の小さな子どもは白いマントで子羊役、草の原に横たわる。照明が天使を浮かび上がらせる。「天には栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ！」合唱が響く。美しい瞳が50年を経て懐かしい。

関東に移り住み、市川、柏で教会学校に夫婦で仕えた。市川は15名、柏は50名、少子化の影響か、教会学校は集まりにくくなかった。しかし、クリスマスは子ども、親、教師に大きな喜びである。

兵庫に牧師として赴任したとき、こども園の5歳児クラスは25~30名が一クラス、全員で聖誕劇をする。風邪や発熱、コロナでも工夫して休まなかつた。0~4歳まで5歳児の聖誕劇を見て育った5歳の園児は自分のせりふも他人のせりふもみんな覚えている。風邪でマリアや博士の誰かが倒れても代役ができる。幼子のひたむきさに驚かされる。今年も40分の長い聖誕劇を心を込めて演じている幼子たち、開始前の緊張、堂々とした演技、終了後の素直な笑顔が懐かしい。

戦後のベビーブーム生まれの私たち大人世代のク

リスマスとの出会いはどうか。私の教会の初訪問はクリスマス、雪で泥まみれ24歳の山男だった。ポケットにトルストイの「光ある内に光の中を歩め」を放り込んでいた。「闇の中を歩く者は、自分がどこに行っているのか分からぬ。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい。」この言葉が心に深く残っていた。日本企業から土日休暇の外資系企業に変わったばかりだった。六甲山のふもと、芦屋の下宿に仮住まい、キリスト大名の末裔の友人が「子供のころ、両親と教会に行った。クリスマスは教会が懐かしい。」と話していた。田舎育ちの私は、クリスマスケーキと障子の破れに突っ込んだ靴下にサンタの贈り物「殿様は教会のクリスマス、庶民と違うな。」と興味を持った。登山部の琵琶湖西峰のクリスマス登山に同行した。

縦走中に遭難者を下す山岳警備隊に会った。雪の下山道や電車の中で「生と死」が交錯し「光ある内に光の中を歩め」の言葉が心に響いた。芦屋川駅にドロドロの登山姿で下りると若い女性に「教会のクリスマスに来ませんか」とチラシを渡された。体も冷え「早く風呂に飛び込みたい」と通常であれば通り過ぎるが、「クリスマスは教会に」と「遭難」二つのできごとが重なった。教会での神学生の話は全く覚えていない。2日間の雪山の縦走で疲れ果て、睡魔との戦いだった。

しかし、温かい雰囲気を感じた。牧師の訪問に励まれ、2か月後にキリスト者、また教会学校教師として歩みはじめた。危険な登山の愚かさを知り、仕事・結婚・家庭に生き甲斐を求めた。

冬山や岩登りを続けていれば、大けがか遭難死していたかもしれない。

クリスマスはキリストを心に迎え、人生が闇から光に変わる機会ではなかろうか。

メリークリスマス

## 地区だより



### 新潟地区

地区長 小池 正造

この秋までに新潟地区で行われた集会を報告いたします。

新潟地区祈祷会が、6月22日に五泉教会を会場に行われました。新潟地区は、年に一度共に集まり、信徒の方の証しを伺い、グループに分かれて祈り合う時を持っています。今年は、野澤幸宏牧師(柄尾、巻祝福)から御言葉に聞き、日下直子さん(村上)の証しを伺いました。また、日下哲平さんとの賛美もしていただきました。グループに分かれ、会場となった五泉教会、教区宣教部が作成してくださった祈りの課題などを用いて参加者それぞれの教会の課題を出し合い、祈りあいました。参加者は32名(12教会)でした。

このほかに教育部が主催した子どもの居場所について報告し合う「心を養う『安全基地』をつくりう③」が7月27日に行われました。社会部などが主催をした8.15平和集会では、「映画『侵略・語られなかった戦争』シリーズ」を鑑賞しました。新潟市の平和大使となった高校生の参加もありました。地区世界宣教委員会は、8月18~20日に佐渡ピースキャンプを現地研修なども行いながら、多くの青年・大学生の参加を得ました。教会音楽部は、荒瀬牧彦師を講師に招き「世界の讃美歌の今」と題して講演と賛美のワークショップを、10月13日に東中通教会で開催しました。たくさんの讃美歌に触れることのできる喜びの時でした。(写真頁右上)

今後も、教育部は11月1日に「アート&クラフト&バザールin敬和」を、1月31日には「雪遊びプログラム」を企画しています。少年部は妙高高原教会献堂式参加を兼ねた一日研修会を11月2~3日



の日程で企画しています。11月30日には、小規模教会懇談会として、教会の伝道報告会を企画しています。さまざまな集会が対面で行われるようになりましたことを神に感謝します。



### 群馬地区

地区長 川上 盾

日本基督教団全体で信徒の高齢化、牧師不足により存続の危うい教会が増えつつありますが、群馬地区にも例外なく、その波は押し寄せています。現在20ある教会のうち、3教会が無牧・代務の体制であり、そのうち2つの教会は単独で牧師を招聘するのが難しい状況です。来年度(2026年度)にはさらに3つの教会の牧師辞任が決まっており、いずれも単独では牧師招聘が難しい財政状況です。

そんな現況に鑑み、群馬地区では2024年度から遅まきながら地区での宣教協力、具体的には無牧の教会の礼拝(説教)応援を、地区全体の協力の中で進めることを始めました。これまで無牧の教会に関しては代務者となった教師に丸投げでしたが、昨年度より教師会でローテーションを組んで、輪番制で説教応援に出かけています。まだ始

まったくばかりなので、展望は見通せませんが、地区内のすべての教会が、無牧教会の課題を「わがこと」として受けとめるようになることを願っています。

他の教区や地区ではとっくに取り組まれていることですが、群馬地区は歴史の長い教会が多く、「一教会・一牧師」が当たり前という意識が強いため、「代務・兼牧」の体制に慣れていないのです。この認識を改善するため、2026年1月には新潟地区で実際に兼牧による宣教に取り組んでおられる教会の牧師・信徒をお招きして協議会を開いて、実際のナマの声を聞き、兼牧についての学びを深める予定です。

今後は「代務」「兼牧」のさらに先にある「教会合同」「合併」についても、タブー視することなく話し合っていかねばならないと考えています。

2026年100万円を献金することを決め、教区負担金に合わせた目標額を提示し、各教会・伝道所にお願いしています。教区の皆様も覚えて「益子伝道を推進する会」への献金をお願いします。

もう一つは、専任教師のいない教会や教師の緊急事態時、毎礼拝を守るために、説教者を地区から派遣する制度と会計の確立の模索です。話し合えば話し合うほど、ハードルが高く、知恵と工夫が求められます。

明るいニュースは、専任教師のいない佐野教会に関するものです。建物は国登録有形文化財ですが、老朽化し、広い敷地に草や樹木が生い茂り、高齢の会員だけでは対応できずに困っていました。地区青年部が暑い7月に、7教会26名の青年・壮年が佐野教会に集まり、除草等の作業を行いました。また秋にもペンキ塗りや掃除のために集まる予定です。そんな驚くべきパワーもある栃木地区です。

## 栃木地区

地区長 今野 善郎

2025年度の教師異動は、足利教会に森岡高康牧師、宇都宮上町教会に村上義治牧師が着任されました。地区内に、専任教師のいない教会・伝道所が三つあります。佐野教会（代務者：佐野明子牧師）、宇都宮東伝道所（代務者：菅家英治牧師）、矢板教会（藤秀彦牧師）。毎礼拝を大切に守っておられます。祈りに覚えながら、説教依頼を地区内の教師が積極的に担い、お支えしたいと願っています。

栃木地区的本年度の課題は、二つあります。益子教会の東側駐車場購入です。「益子伝道を推進する会」が中心となり、2024年3月に借地であった会堂敷地を購入したばかりでした。地主から、さらに駐車場の購入を2027年3月までと迫られました。諸経費を含め、518万円が必要となり、これまでの残額がありますが、残り208万円が必要となります。栃木地区内目標額として、2025年度100万円、

## 茨城地区

地区長 上原 秀樹

茨城地区では、6月29日（日）に「地区祈祷会」が行われました。地区祈祷会は、昨年9月27日に天に召された前地区長・手東信吾先生の「地区の交わりを大切にしたい」という思いで始まった行事です。今年は、神の愛キリスト伝道所（参加28名）において行われました。他教会・伝道所に伺い、その教会・伝道所のことを知ることによってより深く祈ることができます。また、交わりを通して互いに祈り合うことができます。よき交わり、よき祈りの時を持つことができましたことを神の愛キリスト伝道所に感謝いたします。

7月13日（日）には、地区においてはじめて「部落解放祈りの日」集会が筑波学園教会において行われました（36名、オンライン参加の4名含）。竜ヶ崎教会の飯塚拓也先生が礼拝を担当して下さり、

栃木地区氏家教会の和田献一さんに講演をしていただきました。よき学びの時になりました。これからも継続していければと思います。

地区大会が9月23日（火）に筑波学園教会において行われました（69名、内子ども6名）。他地区的ミニストリーをお聞きしたいと話し合い群馬地区渋川教会の臂奈津恵先生にお越しいただき「地域に仕える教会」-子ども食堂をつうじて-と題してお話しいただきました。午後には、ワールドカフェを行い、臂先生にはそれぞれのテーブル（6分団）に入っていただき、よき話し合いの時を持ちました（写真下・中央が臂奈津恵牧師）。



子ども食堂はできなくてもそれぞれの教会・伝道所においてできることがあるのではないかという勇気、希望が臂先生を通して与えられました。臂先生に心より感謝いたします。

## 埼玉地区

地区長 栗原 清

埼玉地区は2025年度、越生教会に金子敏明先生、飯能教会には吉永直子先生、大宮教会に佐藤潤先生、上尾使徒教会には北田翔太郎先生を迎めました。埼玉地区はこの数年、新しい先生方の着任が続き、顔ぶれが変わってきました。

2025年度は、コロナウイルス感染拡大のために

制限されていた活動が、ほぼコロナ前に戻ってきた感触があります。中でも、2019年度以来5年ぶりの地区全体修養会が、8月8日（金）～9日（土）に、軽井沢南ヶ丘俱楽部で行われたことは、大きな感謝でした。木村利人先生（「幸せなら手をたたこう」の作詞者、早稲田大学名誉教授）による講演には、94名の参加者（うち7名は子ども）が与えられました。8月14日（火）に行われたユース・ワンドデイキャンプには31名、8月14日（火）～15日（水）の青年部のお泊り会には20名、10月13日（月）のCSせいと大会には56名が参加し、子どもたちや若い世代が集いました。教師研修会は9月8日（月）、1日のプログラムで行われ、「伝道の前進のために」とのテーマの下、4名の先生方の伝道の現場での話を伺いました。26名が参加、教師同士の交わりが与えられました。



▲5年ぶりの地区全体修養会

婦人部と壮年部は、各教会の兄姉の高齢化や人数減少によって、委員会やその活動に課題が出てきます。一方、もより婦人研修会は各ブロック単位で行われ、交わりと学びを通してお恵みに与っています。

地区委員会主催の集会としては、社会委員会の代わりとして「平和を求める8・15集会」を行い、日本YMCAの横山由利亜氏より「ウクライナからの避難者はいま」との講演会を行い、52名の参加者からは関心度の高さが伺えました。その他、恒例のホームページ委員会主催のITまつりには20名が参加、アーモンドの会（障教懇）主催の懇談会に36名が参加しました。各会が様々に工夫をし、それぞれの活動を通して、埼玉地区は「いま動いている」ことを実感しています。

主任担任教師として着任しました

## 佐渡伝道の今後の使命を覚えて

佐渡教会牧師 荒井 真理



去る9月15日に島内の教会や近所から、また地区の牧師と信徒の方々は船に乗り主任担任教師就任式にご参列くださいました。そしてお祝いの言葉もさまざまな教会、個人の皆様から寄せていた

だきました。この日一気に押し寄せてきた祝福の風は、私に想像していなかった不思議な衝撃を与えました。

実は、佐渡教会に赴任して20年以上経つ私が主任になることで式をして遠路集っていただくのは申し訳ないという思いがありました。実際は就任式（写真下参照）を通して按手礼を超える祝福を感じました。



苦労が重なったからでしょうか。4月に牧師1人体制となって以来、教会事務、会計とも私の担当となると、次には教会の設備が2か月ごとに次々と使えなくなり、対応に時間を費やしました。

また夏の佐渡教会は「暑い」と歓迎されてきたものが、近年の気候沸騰にどこでもエアコン設

置が当たり前となると、エアコンのない佐渡教会は「暑い」と言われるようになってきたため、ホールの70年間締め切りだった高窓を開放できるように網戸を取り付けました。大きさの違う木造の窓をどうするか決まるまで大工さんに一緒に考えてもらいました。築70年の礼拝堂の外壁のペンキ塗ワークキャンプも地球沸騰の夏には成立しない、と2か年の経験で学び、専門的アドバイスをいただいて計画変更しました。

一緒に考え話し合う役員会体制が難しくなり、地区長と佐渡伝道を推進する会の協力を得て4月にスタートしましたが、就任式を通して神様は「教会には祝福が待っている。これでよいのだよー」という風を送ってみせてくださったと感じました。

佐渡教会は、かつて妙高にあった教区の向山荘の設備をいただいて旧幼稚舎に収め、海と山に囲まれて合宿・リトリートができます。金山の世界遺産登録をきっかけに400年にわたる遊女・娼妓、キリストン、無宿人、朝鮮人労働者の人権をテーマにする合宿も増え、そこにも佐渡教会に与えられた使命があると感じています。

これからも地域の方々と共にこの地に正義と平和が実現するようにと神様の祝福を祈り続けていきます。

▼誰もが気軽に集い、遊んで話して食べる部屋





## 「仕事は、みんなのことをお祈りすること・教務教師」

新島学園短期大学宗教主任・渋川教会牧師 脇 奈津恵

李元重先生の後任として昨年4月より群馬県高崎市にある新島学園短期大学 の宗教主任として着任しております。本学は1983年に女子短期大学として設立されましたが、2004年に共学化し、学科はキャリアデザイン学科とコミュニティ子ども学科を設置しています。宗教主任としてだけではなくキャリアデザイン学科の専任講師でもあり、両学科必修の「キリスト教入門」を担当し、また学校での礼拝「チャペル・アワー」の企画運営や、キリスト教行事の担当をしています。地域の牧師先生にお越しいただくことも多く、教会と学生を繋ぐ貴重な機会となっています。5年前に竣工した新木造校舎の多目的講堂は「新島の森」(写真下)として本学のシンボルとなっており、現在はこちらでチャペル・アワーを実施しています。学生数は200名弱で小規模な短大ですが、こうした一人一人に目が行き届く学校は新島襄が目指した教育に近いのかもしれません。

キリスト教に興味を持っていない学生たちを振り向かせ、神さまの存在を伝えていくことは、今のところ、とても刺激的です。学生たちには聞き慣れない「宗教主任」という役割ですが、わたしは「宗教主任の仕事は、みんなのことをお祈りすることだ」と伝えています。

学生たちに自分が何を祈ってもらいたいかを書いてもらうと、さまざまな課題が出されます。自分のことを祈ってくれる存在がこの学校には居る、キリスト教主義学校が一番伝えなければならない執り成し手である主イエスと祈りを聞いてくださる神さまの存在が、こうしたことから伝えられたらと思います。

渋川教会の主任担任教師として11年目を迎えていますが、教会の理解がなければ短大での宗教主任の働きも果たすことができません。私自身、多くの方々に祈られたことを糧に、また学生のために、そして学校のために祈り続けていきたいと思います。



## 第75回 第2、3回常置委員会報告

教区書記 小池 正造

第2回常置委員会を9月9日に、第3回常置委員会を11月11日いずれも大宮教会で、常任常置委員会を8月11日、9月2日、16日、23日、10月21日、11月4日に開きました。

- ・常任常置委員会で東松山教会（8月11日）、草加教会（9月16日）、佐野教会（10月6日）、単立グレイスチャペルへの訪問を行いました。
- ・大宮教会との事務所借用の覚え書きの更新を締結いたしました。
- ・教区事務所職員の時給を9月より1,150円に変更することになりました。
- ・教師部では、次年度研修に向けて教区活動方針に従って、田中かおる副議長、ジョナサン・マッカリー宣教師とで協議をしていることが報告されました。
- ・受按希望者（横内美子師・見附教会主任担任、平澤巴恵師・春日部教会担任）の面接を行い、11月29日に大宮教会において按手礼を執行することを可決しました。
- ・春季教師検定試験受験志願者（正教師1名、補教師1名）の面接を行い、教団教師検定委員会に推薦することを可決しました。
- ・宣教研委員会に研究を委託した女性担任教師の推薦正議員枠の拡大について、並びに担任教師の代務者就任時の正議員資格についての研究報告がなされました。女性担任教師の推薦正議員枠の拡大についての趣旨は、女性担任教師が正議員として総会に出席することの課題を認めつつ、現教規、並びに教区規則において、また男性担任教師の存在を考え合わせると、女性であれ男性であれ担任教師の教区総会への参加問題として整理しました。その上で、推薦正議員における担任教師の数を常置委員会の判断で5名程度に増やし、これを入れ替え制で議員資格を与えることが提案されました。担任教師の代務者就任時の正議員資格については、他教区の実情を調査した上で、多くの教区においては、信仰職制委員会の答申（2010年版）で「本務が担任である場合は、正議員になれない」に沿って専ら主任担任教師が代務者として就任し、代務

教会においては、議員資格が与えられていない傾向がみられます。一方で関東教区においては、議員資格が与えられている現状があります。そのため、委員会は、教団総会に対して担任教師の教区総会での正議員登録を許すよう、教規第61条①の改正を訴えてはどうかと提案しました。意見交換をし、時期教区総会議案とするためのスケジュールを確認しました。

- ・教区総会の評価と反省について、①1日目夕食後の出席者が少ないという課題がある。②選挙などの時間短縮方法について意見が出された。③印刷機レンタルの経費節約が提案された。④物販担当者との搬入並びに駐車場利用での調整が必要との意見が出されました。
- ・教区総会で、地区委員会に委託された教会記録審査の報告を受けました。幾つかの地区で審査の確認が取れていなかったため、協議をして、特別に12月までに審査を終えて、2月常置委員会に追加報告をすることを可決しました。
- ・2026年度教区教会負担金について、意見交換をし、現状維持の計算方法で算出することを可決しました。次年度負担金は、38,806,000円（今年度比373,000円減、99.05%）となります。
- ・向山荘に関して、売却の方向で検討を進めていくこと、並びに、次期教区総会には、売却に関する何らかの議案を提案するように準備することを可決しました。
- ・教区事務所詐欺被害について、調査書を共有し、各教会・伝道所に送付する報告書について意見交換をし、確定をしました。
- ・春風伝道所開設申請について、近隣教会、関係教会からの意見を確認した上で、現状での開設申請を受け取ることのできないことを可決しました。
- ・単立教会土浦グレイスチャペルからの伝道所開設申請について、引き続き教団事務局との調整をすることを確認し、継続審議としました。
- ・各種申請に関する件（敬称略）
  - (1) 教会担任教師異動  
栢尾教会 辞野澤幸宏（主・正）

## 教区事務所だより

主事 金刺 裕美

酷暑の夏が長く続き、短い秋を迎えたばかりですが、早くも、雪の便りが聞かれる頃となりました。皆様の教会でも、アドベント・クリスマスのご準備にお励みのことと存じます。良き備えをして、クリスマスをお迎えください。

### ◎クリスマス献金のお願い

教区総会の折にもお願ひいたしましたが、各種献金を憶えてお支えをお願いいたします。詳細はポスターをご覧ください。

### ◎2026年度謝儀互助申請について

2026年度、謝儀互助を希望の教会・伝道所は必要書類を整えて、教区事務所着1月末日の締め切りに間に合うよう、お早目に地区長へお送りください。

### ◎「教区一覧」の追加・訂正について

- ・P5. 教師部委員会 書記 崔 長壽
- ・P8. 栃木地区 会計 芦名 正道
- ・P14.6 下館教会 電話 090-3485-2843

FAXの変更はありません。

- ・P23 無任所教師 1.宇喜多克典 削除  
8.永本慶子 削除
- ・P27 47認定幼稚園 小羊幼稚園  
電話 048-463-3174

### ◎教区事務所の冬期休暇について

#### 12月29日～1月9日（月～金）

※その他、土・日・月および祝日は通常通り休業です。休暇中、ご不便をおかけいたしますが、どうぞご了承ください。

※緊急連絡先 小池正造教区書記  
025-247-0058F（東新潟教会牧師館）  
携帯 090-1404-9179

### ◎教区事務所執務時間変更のお知らせ

2026年1月より、執務時間を火曜日と金曜日、10時から5時までとさせていただきます。

2月～6月の期間は、火曜日から金曜日、10時から5時までになります。緊急連絡は、東新潟教会の小池正造書記までご連絡ください。

電話：025-247-0058

## 社会保険事務だより

保険事務 金刺 裕美

今年は、秋の疲れが今頃出ていて、体調がすぐれない方が多く見られます。

これから、クリスマス・新年とご多用な日々がやってきます。インフルエンザで学級閉鎖などもよく聞きます。どうぞ、お体に気を付けてお過ごしください。

### ◎「マイナ保険証」利用について

12月2日よりマイナ保険証が正式に使われる事になりました。マイナンバーカードをお持ちでない方、また持っているが保険証との紐付けがなされていない方は、「資格確認証」がすでに年金事務所から送付されていることだと思います。今後はこちらをご使用ください。従来の保険証は、12月2日以降使えなくなります。どうぞご注意ください。

※「資格情報のお知らせ」では受診できません。

マイナ保険証で受診する際、「限度額認定証」「高齢者保険証」の持参は不要です。

### ◎賞与（冬季）社会保険料算出方法

- ①支給額のうち、千円未満を切り捨てた額を「標準賞与額」といいます。
- ②標準賞与額に各料率を掛けて保険料を算出し、教師と教会で折半します。

（小数点以下は4捨5入、1円未満は教会負担）

年齢 項目	満 40 未満	40 以上 65 未満	65 以上 70 未満	70 以上
健保	9.76%	9.76%	9.76%	9.76%
介護		1.59%		
厚生	18.3%	18.3%	18.3%	
児童	0.36%	0.36%	0.36%	

- ・児童手当は、折半せずに教会でご負担ください。
- ・賞与保険料の納入は、12月末までにご送金ください。
- ・自動払込は12月26日（金）になります。

### 編 / 集 / 後 / 記

教団全体の教勢低下が深刻になる中、教団出版局の整理・縮小の発表がありました。教区では、各地区の教師不足という問題が大きく取り上げられています。いずれも心を痛める課題ですが、イザヤ書59章にあるように、

神さまの力が弱くなったのではありません。主が私たちに送られた聖靈さまにより、福音の言葉を力強く語らせてください。救い主の誕生を待つこの時、明るい光に照らされて、希望を持って歩みたいと願います。（森田）

# 部落解放だより

No. 63

2025年12月 7日

関東教区部落解放推進委員会

発行人代表 栗原 清

埼玉県入間市河原町 8-6

武藏豊岡教会

連絡先 tel 04-2962-6191

郵便振替 00140-3-67727

加入者 日本基督教団関東教区

## 一4期目委員長就任にあたって

「人よ、何が善であるのか。そして、主は何をあなたに求めておられるか。それは公正を行い、慈しみを愛しへりくだって、あなたの神と共に歩むことである。」 ミカ書 6 章 8 節(聖書協会共同訳)

関東教区部落解放推進委員会委員長  
(埼玉地区) 武藏豊岡教会牧師 栗原 清

今年3月11日夜、狹山事件の冤罪被害者として無実を訴え、60余年にわたり「差別と不正義に抗う」歩みを続けられた石川一雄さんは、故郷の狹山市で86歳の生涯を全うされました(関東教区を代表し弔問しました)。1963年に起きた狹山事件は部落差別と司法の不公正が交錯し、石川さんは無期懲役を言い渡され、仮釈放後も再審請求を重ねながら、差別撤廃と冤罪救済を訴え続けて、無念の死を迎られました。

私たちの教会は、この遺志をどのように受け止めのでしょうか。先ずは、教会の集会で石川さんの「正義を求める歩み」を聖書の御言葉と重ね、神の義の実現を待ち望む信仰の姿勢に祈りつつ歩むこと。次に、地域の人々と共に差別撤廃の課題を担い、祈りと行動を結びつけること。更に、教会の集会や学習会で狹山事件を学び、次世代へ継承する事で沈黙させられてはならない小さき声を、聖書の御言葉と共に聞き続けることです。

石川さんの逝去は、祈りと神の義の実現を心新たにする日となりました。差別問題の集会を通して、冤罪に苦しむ人々、差別にさらされる人々と共に祈り続けることは、私たちキリスト者の使命なのです。そして、部落解放を推進する事は、他の団体と連携しつつ、教会も共に声を上げ、祈りを重ね行動する事で、神の義の実現に参与する事になります。

「再審の扉」が開かれぬまま逝去された石川さんの無念は、私たちが忘れずに差別のない社会、神の義が実現する事を目指し、御言葉に耳を傾け祈りつつ神様と共に行動を重ねる事で継承されていくのです。

## <新委員の自己紹介> 今年度この委員会

に新しく加わった委員は次の2名の方です

### ◇ 横山由美子 委員 (教区教会婦人会連合副委員長、新潟地区・東中通教会員)

これまで教区宣教部委員として数年のご奉仕をした経験から、教師のみなさまと共に活動することの尊さを教わってきました。

また、YWCAでボランティアする中で、人権・平和・環境・憲法についてのイベント開催をしてきました。今、身のまわりにセーフスペースをつくりだす実践を試みながら、ハラスメントについて考えるワークショップを開いています。

「部落解放」はわたしにとって、かなり距離を感じてしまう言葉でしたが、学ぼうとしなかったこれまでを悔いることから始まりました。そこに居るのに居ないかのように扱われる悲しみは、今もなお繰り返されています。それは、わたしのように知らなかった、知ろうとしなかったことが悲しみを助長しているのだと恥じ入ります。世界がレイシズムや排外主義に流れているこの時にこそ、共に学び、主の平和の実現を希たいと願います。

### ◇ 藤田基道 委員 (群馬地区・緑野教会牧師)

前任の川上純平さんから部落解放推進委員(群馬地区)を引き継ぎました。昨年10月19日(土)、2024年度関東教区部落解放講座を群馬地区太田八幡教会で開催しました(14名参加)。講師の安田耕一さんを通して起こったことに向かい、小雨降る中、現地で説明を聴いたことを想い起こしました。群馬地区では群馬同宗連の代議員を担当しています。みなさまと共に学び、つながり、分かち合っていきたいと思います。

# 第16回部落解放全国会議奥羽教区開催 参加報告

## テーマ：ゆがみに気づく第一歩～部落差別解消という「沖」をめざして～

期間：2025年10月7日（火）14時～ 9日（木）12時30分

会場：奥羽教区（青森市）・国立療養所 松丘保養園、・日本基督教団 青森教会

第16回部落解放全国会議奥羽教区開催が、奥羽教区と部落解放センターの実行委員会主催で、奥羽教区で初めて開催されました。全体スケジュールは以下の通りです。関東教区部落解放推進委員会から飯塚拓也委員、平澤 昇委員、山本安生委員、横山由美子委員の4名が参加したので、報告します。尚、教団の雲然議長（奥羽教区出身）以下4役が開催期間中出席されていました。参加者は、（名簿上で）111名。



### 全体スケジュール：

#### 第1日目：10月7日（火）

- 場所：松丘保養園 スインティ音楽演奏  
14:00 オリエンテーション・開会礼拝  
14:20 講演①「入所者の語りと考えるハンセン 病療養所松丘保養園の歴史」「ハンセン病問題の概要」  
・園内見学  
16:50 スインティ音楽とお話  
18:50 休憩・夕食（弁当）  
19:40 基調報告「ゆがみに気づく第一歩～部落差別解消という「沖」をめざして」  
部落解放センター 鈴木 祈  
20:10 事務連絡・解散

#### 第2日目：10月8日（水）

- 場所：青森教会 Aomori Church UCCJ  
8:30 六ヶ所フィールドワーク 出発  
(15:00 帰着予定)  
9:00 朝の祈り、 事務連絡  
9:30 事前研修報告① 秋田  
事前研修報告② 岩手  
12:00 休憩・昼食（弁当）  
13:00 事前研修報告③ 青森  
15:00 基調報告（教団・奥羽教区）  
教団：雲然 教団議長  
奥羽教区：小林教区議長

- 16:30 講演② 狹山事件 「第4次再審の現状」  
部落解放同盟 安田 聰 さん  
17:45 講演③ 公正採用と部落問題  
NCC 水野松男 さん  
18:45 事務連絡  
19:00 解散・各自ホテルへ

#### 第3日目：10月9日（木）

- 場所：青森教会 Aomori Church UCCJ  
9:00 聖書の学び  
10:00 全体会  
11:30 閉会礼拝 司式：藤原 仰（九州教区）  
12:00 事務連絡、 終了

#### 1日目 松丘保養園、スインティ音楽

報告 埼玉地区・埼玉新生教会牧師  
平澤 昇

ゆがみに気づく第一歩～部落差別解消という「沖」をめざして～ と言うテーマで、奥羽教区で初めて開催されました。青森県には、日本最北端のハンセン病療養所「国立療養所松丘保養園」があり、六ヶ所村には「核燃サイクル施設」があります。

今回の全国会議の1日目は、会場である松丘保養園でのハンセン病の学びと施設見学、素晴らしいスインティ音楽との出会い、そして冤罪・狭山事件第4次再審の現状報告を聞き、テーマである「沖」をめざして「出会いの出来ない人の出会い」が出来ました。講師から、裁判官になつたつもりで話を聞くことが求められました。「あなたならどうジャッジするか」、「行政は公正公平と思い込んでいる」、「どちらかに（私）も立っている」、「良き人になろうとしているが、私自身も何かを差別しようとしている」、「『差別解消』は、普段の努力がなければ得られない」と。「差別する権利は誰にも無く、誰も差別されない」

## 2日目 「六ヶ所村フィールドワークに 参加して」

報告 教区教会婦人会連合(新潟・東仲通教会)  
横山由美子

- ・現地ガイド： 山田清彦さん（核燃サイクル阻止1万人訴訟事務局長）
- ・交流会スピーカー・会場提供： 菊川慶子さん（ハーブの里・現地農業者）

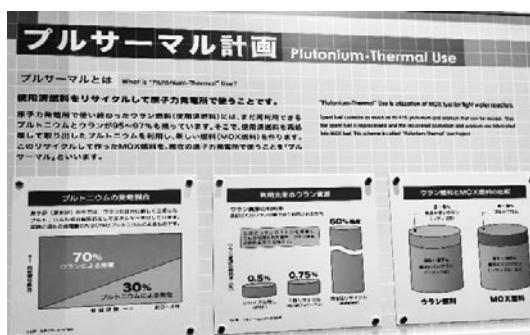
六ヶ所村には、①原発で使われた燃料を再処理して取り出したプルトニウムを燃やして発電する（プルサーマル）サイクルと②原発のゴミ（放射性物質）と再処理後のゴミ（高レベル放射性廃棄物）である核燃料棒の処理・処分をするための施設があります。

青森の大自然の中に石油を備蓄するタンクが51基並び（国家石油備蓄地）、多くの風車が並んでいる地を抜けて、原燃PRセンターを訪ねました。



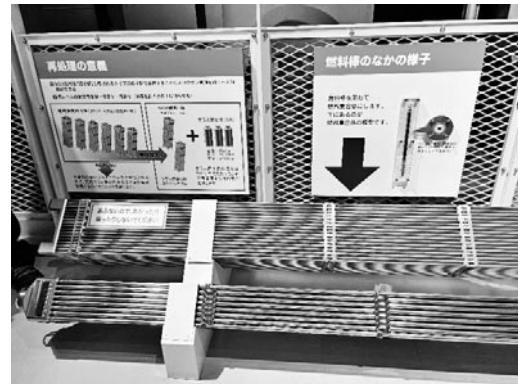
原燃 PR センター内の床に描かれた写真

核燃料サイクルを図式化した物は、さも現実に稼働できるかのように堂々と展示されていますが、再処理工場は完成していません。もんじゅ廃炉により高速増殖炉計画は破綻しています。それなのになぜ経産省と電力会社は、核燃料サイクルを強引に進めようとしているのでしょうか。電力会社はこれまで立地自治体に対して、使用済み燃料は原発敷地内のプールで一時的に冷却保管するが、その後青森の再処理工場に搬出するので、使用済み核燃料は原発立地



原燃 PR センター プルサーマル計画説明

場所には残らないと約束してきました。



原燃 PR センター 燃料棒の模型

一方、青森県は、使用済み核燃料は再処理の原材料なので搬入を認めてきました。

しかし、再処理をしないということになれば、青森に集められた使用済み核燃料は、不要物となるわけです。国・電力会社と県との約束で、青森県から出さなければならないのです。これら使用済み核燃料を立地自治体に戻し保管するためには、合意を取り付けなければなりません。それはかなり困難でしょう。

現実には動いていないのですから、再処理工場のプールは満杯状態だそうです。持っていく場所もない使用済み核燃料の問題を先送りし、莫大なお金をかけて再処理を進めるふりをしなければならないというわけです。

何とも思考停止に陥っているエネルギー計画に対し、声を上げていきたいと思いました。

往復のバスの中やPRセンターで、燃料サイクル事業について説明され、これまでの運動の歴史や現状・課題をお話してくださった山田さんに感謝を申し上げます。

親から引き継いだ六ヶ所村の土地に、花やハーブを育てながら反対運動をされてきた菊川さんは、私たちを快く迎え入れてくださいました。草花に囲まれた「牛小屋」と呼ばれる家は、薪ストーブを中心に入々が集いやすい空間になっていました。何人かが宿泊できる場所も増築されていました。菊川さんのお話に耳を傾けていた私たちを前に、言葉が見つかからず涙を流されていた菊川さんの姿が胸を打ちます。いつまで反対と言わなければならないのか。自分の命が終わるまでに間に合うのかと。菊川さんが孤独を感じることなく、希望を持って活動できるように、私たちができる事をしたいと願います。どんなに目の前が真っ暗でも、主が導いて小さな灯りを灯してくださいますようにと祈ります。Ω



菊川さんの著書

### 3日目 全体会、閉会礼拝

報告 茨城・竜ヶ崎教会牧師 飯塚拓也



3日目は参加者全員が青森教会に集い、朝9時からの「聖書の学び」から始まり、「全体会」、「閉会礼拝」と続きました。「聖書の学び」では、奥羽教区議長の小林よう子さん（八戸小中野教会牧師）が教会の現場からの視点にたった話をされました。私たちが日々を様々な課題と向き合うときに、「聖書に聞く」ことの大切さを再確認できました。

その後、全体会では2日目の六ヶ所村フィールドワークからの報告がありました。青森県に、核燃施設や軍事施設が密集していることはあまり知られていなく、今回現地の方の解説を聴きながら「六ヶ所村」に行く企画は大切だと感じています。準備してくださった奥羽教区の皆さんに感謝します。Ω

### 栃木地区部落解放講座の開催報告

#### 「小山市の被差別部落を訪ねて学ぶ」

6月30日（月）10:30、

報告 栃木・益子教会牧師 大下正人

和田献一氏に講師をお願いし、小山市の被差別部落集落を訪ねました。現在は、栃木地区でも2番目に大きな都市ですが、至るところに部落の集落が点在し、今もなおその名残が残っています。今回の参加人数は6名と少なく、自家用車で小回りよく回ることができました。小1時間の講習の後、約2時間のコースを丁寧に説明してくださいました。

特に私が印象に残ったのは、部落問題は今も解決しておらず、集落の入り口には必ずと言っていいほど、キリスト者の存在が明らかであるとの言葉に衝撃を受け、キリスト者諸先輩方が歩まれた道筋があるからこそ、今のわたしたちがあるのだと強い思いを抱きました。Ω

### 茨城地区「部落解放祈りの日集会」開催

7月13日（日）15時～ 於筑波学園教会

報告 茨城地区・鹿島教会員 山本安生

講演題：「氏家宿の砥石構の顛末」

講師：和田献一さん（栃木地区・氏家教会）

参加者：28名（内Zoom 3名）

「部落解放祈りの日」の実施がもっと地区内教会・伝道所に広がるようにと願い、この日地区内では初めてこの集会を開催しました。来年も継続して開催されることが望れます。

### 10・31「狹山事件の再審を求める市民集会」とキリスト者前段集会が開催

報告：茨城地区（鹿島教会員）山本安生

「キリスト者前段集会」10月31日（金）10:30

～12:00 於日本聖公会・聖アンデレ教会ホール。各団体・教派代表の挨拶があり。続いて、日本基督教団参加者の交流会。参加者40名。

「狹山事件の再審を求める市民集会」

13:00～15:30 於芝公園・集会場 集会閉会後に日比谷公園まで、デモ行進。

今年3月11日に石川一雄さんが亡くなられて第3次再審請求は終りになったが、早智子さんが代わって第4次再審請求を出され、弁護団も引き続き支援することになったと報告された。今回は、何時もの日比谷公園が工事のために使えないでの芝公園に変更になった。

関東教区からの参加者：関東教区・熊江議長（群馬）安田耕一、（埼玉）後藤龍男、平澤昇牧師、東所沢教会員1名、武藏豊岡教会員2名、（茨城）山本安生、計8名。

### 部落解放センター活動献金のお願い

「部落解放センターの活動は献金が原資です」

部落解放センターは、大阪府大東市にあります。

民家一軒がセンターで、専任の主事と事務員1名で運営しています。教団は、部落解放センターの入会費を負担しますが、「活動費は献金で」としています。「私たちの献金がセンターの活動を支える」のダイレクトな献金です。献金してくださいる教会が一つでも増えることが願いです。

部落解放センター運営委員 飯塚拓也

# 宣教部だより

No.98

2025年12月7日

日本基督教団 関東教区宣教部委員会

委員長 飯塚 拓也

301-0843 龍ヶ崎市羽原町1366-5

Tel. 0297 (64) 3768

<http://uccjkanto.holy.jp>

## クリスマスを前に思いをめぐらす－平和はどこから？

宣教部委員長 飯塚 拓也

11月30日から始まるアドベントを迎えようとする中で、「平和の君」として世に生まれたイエス・キリストを祝うクリスマスを、私たちの世界は本当に祝うことができるのだろうかとの思いにかられています。

日本で初の女性総理となった高市さんが、トランプ大統領を迎えた報道が数多くなされていました。その中で、横須賀港の空母ジョージ・ワシントンの格納庫でトランプ大統領が演説をした際に、その隣に高市さんが並び、演台の後ろには「Peace Through Strength(力による平和)」の横断幕が掲げてありました。

高市さんは日本の軍事力をGDP比2%に高めると宣言し、トランプ大統領を喜ばせました。

日米首脳会談は成功裏に終わったとマスコミは評価しています。高市さんの支持率は高水準を維持しています。これは、日本が「力による平和」に舵を切ろうとしていることを国民も認めているという大変危険な状況をあらわしているのではないでしょうか。

言うまでもなく、日本には憲法9条があります。戦争の放棄、武力の行使の禁止を掲げた崇高な精神を謳っています。この憲法9条こそが戦争の抑止力と私たちは学んできましたが、憲法9条の危機が迫っていることを忘れはならないと思います。

中国や北朝鮮を念頭にして、軍備を充実させることによって他国からの攻撃を抑止する。こう考える人が日本でも増えています。しかし、それが本当に平和をもたらすことになるのかどうかを、私たちは慎重に検証しなくてはならないでしょう。

クリスマスを迎えるにあたって、今年、特に「平和の君」として誕生したイエス・キリストは、後に「平和を造る人々は幸いである」(共同訳)と教えられました。この「造る」が、「あなた方は平和をどう作るのか?」と私たちに問うていると思います。

憲法9条の精神と聖書は本質のところでつながっています。「力で平和は造れない」を今こそ高く掲げたいと願っています。

### 関東教区宣教部活動報告

去る5月20日～21日に開催された第75回教区総会において新たに宣教部委員会が選任され、2年間の任期での活動が始まりました。6月6日には教区教会婦人会連合の51回総会が高崎教会を会場に行われ、6月16日～17日には新任教師オリエンテーションが狭山教会を会場に行われました。この宣教部だより98号には、それぞれの参加の報告を掲載しています。

新任教師オリエンテーションでは、狭山の現地研修に加えて「ハラスメント研修」を初めて行いました。東中通教会の横山由美子さんから「これってハラスメント?」のテーマで学ぶことができました。ハラスメント研修はこれからも続けたいと願っています。

7月21日には宣教を考える集いが大宮教会で行われました。テーマは、「出会いと学び、交わりを楽しもう!」で、内容は3部構成でした。第1部は開会礼拝を「賛美礼拝で楽しい元気の出る礼拝」と、子どもと大人が心から主を賛美する礼拝を守りました。第2部はチェロコンサート「音楽は、世界をつなぐ言葉」として、ウクライナからつくば市に避難し活動を続けているグリブ・トルマチョブさんの演奏に耳をかたむけました。第3部は「渋川教会の宣教の取組み…子ども食堂と教会」を、臂奈津恵牧師よりお話しいただきました。臂牧師の講演は、この後紹介します。

10月31日には、「アジア学院ツアーワーク」を行うことができました。また、「アジア学院サンデー」は、4地区17教会で行われました。

最後になりますが、前東北教区議長で会津坂下教会牧師の高橋真人牧師が病のため去る11月14日に帰天され、11月20日に葬送式が執り行われました。闘病中のなかでも、高橋牧師には教区の宣教を考える集いで会津の協力伝道についてお話しいただき、栃木県北の伝道協力の協議にも来ていただきました。改めてお働きに感謝しますと共に、ご遺族の皆様・教会の方々に主の慰めをお祈りいたします。



【宣教を考える集い講演】

渋川教会と子ども食堂

# — 教会だからできること、教会にしかできないこと —

渋川教会 脇 奈津恵



## はじめに：活動の原点

渋川教会では、2018年9月より、閉園した信愛幼稚園の園舎を再活用し「しんあい子ども食堂」を運営しています。そして、2019年9月からは「ボランティア団体 信愛えんがわカフェ」が中心となり、子ども食堂や地域交流活動を実施しています。先日、この取り組みについて関東教区の「宣教を考える集い」で事例発表を行いました。

まずお伝えしたいのは、渋川教会は最初から「子ども食堂をしよう」と活動を始めたのではない、ということです。活動は、教会が抱える長年の課題に教会全体で取り組むプロセスの中で自然と始まりました。

## 教会が乗り越えた「傷」と再生

かつて地域に親しまれていた「信愛幼稚園」は、2013年に閉園し、その結果、使われなくなった園舎が残されました。閉園に至る過程では、教会内の対立も生じ、地域との繋がりも薄れていきました。使われない園舎、教会の対立、会員の高齢化など、挙げればきりがないほどの課題に直面していました。牧師である私も、子育てや牧師としての自分の未熟さに行き詰まりを感じていました。

しかし、着任以来、神さまの導きにより、祈祷会には多くの祈り手が与えられました。共に祈る中で、匿名の方から1000万円の献金が教会に寄せられたのです。私たちはこの献金を用い、電子オルガンの新規購入、バリアフリートイレの導入、そして幼稚園舎の改修を実施し、再び地域の方々も集える場所へと施設を整備することができました。こうした取り組みを通して、教会内に「傷」はあるものの、十字架で傷を負われた主イエスが復活されたように、渋川教会も傷を負いながらも主の御用のために地域で用いられると確信するに至りました。

## 身の丈に合った一歩から

施設改修後、役員会では地域に向けた取り組みが検討されました。しかし、高齢化や奉仕者不足などの課題から、すぐには「子ども食堂」という結論には至りませんでした。そういった中で、関係のあった児童養護施設「子持山学園」の子どもたちとの繋がりの中で、「大きなことはできなくても、身の丈に合った子ども食堂ならできるのではないか」という声が上がりました。半ばお試し的な試みとして、「しんあい子ども食堂」の第1回目が2018年9月に開かれ、その後、毎

月継続できるようになりました。

「教会が主催だと利用しにくい」という声もあったため、2019年9月には、信愛幼稚園舎を地域に再活用するためのボランティア団体として「信愛えんがわカフェ」を設立しました。これにより、地域から多くのボランティアの方々が協力してくださるようになりました。

## 地域で不可欠な「社会資源」として

新型コロナウイルス感染症の流行中は、食堂形式を中断し、食材の配布などを実施しました。この頃から、利用者数は大きく増加しました。利用者は、生活保護受給には至らないが経済的に苦しい世帯、ひとり親や障害のある保護者の世帯、夫婦共働きで疲弊している世帯など、多岐にわたります。取り組みを継続する中で、「しんあい子ども食堂」は、インフォーマルながらも地域の重要な「社会資源」として認知されるようになりました。現在、会食形式の子ども食堂は実施しづらくなりましたが、月1回以上行われる手作り弁当の配食は140食以上になり、40世帯以上が利用しています。また、教会員以外のボランティアメンバーが地域から与えられ、静かだった園舎に活気が戻ってきました。さらに、経済的に困窮する世帯の子どもさんを対象とした食事付きの無償学習支援も週1回実施しており、ここにもボランティアの方々の協力が集まり、多くの利用者が集っています。子ども食堂やボランティア活動は、直接の伝道の場ではありませんが、こうした社会資源として教会が認知される中で、主イエスの福音を伝えられたらと願っています。

## 地方教会としての使命

渋川市の高齢化率（65歳以上の人口比率）は36%（2023年）で、全国平均より7ポイント高くなっています。こうした状況に置かれた地方教会として、教勢の右肩上がりを簡単に望むことはできません。しかし、地域に教会があることを、社会的な活動を通して示していく必要があるのではないでしょうか。教会の関係人口を増やし、単に「教会が存続すればよい」という消極的な姿勢から脱却することが重要です。

不確実性が高い状態が今後も続くと予想されますが、主の僕として宣教の業を行う私たちには大きな使命があります。決して自分の身の丈以上の無理をするのではなく、与えられた恵みを再確認しながら、地域に仕えていくことができたらと願っています。

## 「新任教師オリエンテーションに参加して」

大宮教会伝道師 佐藤 潤

このオリエンテーションに出席させていただき、埼玉地区での活動について知ることができました。その中で特に、狭山事件について知ることになりました。オリエンテーションの前に思ったのは、なぜ狭山事件についてのフィールドワークがあるのかということでした。この事件になぜ教会が関わっているのか、と考えたからです。狭山フィールドワークに参加し、この事件は女子高校生が犠牲となった痛ましいもので、その後の捜査や裁判の過程で、部落出身の青年、石川一雄さんが不十分な証拠と偏見の中で犯人とされ、長年獄中生活を強いられていた事件とされていることを知りました。冤罪の重さと同時に、聖書の語る人間の「罪」について考えさせられました。冤罪とは、人が行ってもいない罪を着せることです。この事件の容疑者は、事実に基づかない罪によって、人生と名誉を奪われたと言われています。そのことは、聖書において罪なき主イエスが不当な裁きを受け、十字架につけられた姿を思い起こします。社会が抱える差別や偏見が裁きに現れる時、真実は歪められ、弱い者に不当に罪が押し付けられる。ここに人間社会の罪深さと悲しさがあります。しかし、聖書が語る「罪」は、実際に犯した行為の罪だけでなく、神の前にある人間の罪です。私たち人間は皆、自己中心的に生きて、神から離れている「罪人」です。冤罪という罪は、差別と偏見の中で「この人ならやったに違いない」と決めつけることがあります。人間はしばしば恐れや不安から自分を守ろうとし、真実を見失い、他者を犠牲にしてでも安心を得ようとします。当時の司法当局者は、自分たちの地位と名誉を守るために、差別と偏見を持って1人の青年を犯人に仕立て、権力による不公正を行ったとされています。

現在、第4次再審請求中であると伺いました。まだ、冤罪が確定した事件ではありません。事件から60年が経過しています。教会がこの事件に対してすべき事柄は一体何なのかを考えますと、それは祈ることだと思います。なによりも被害者とご家族のために、冤罪の可能性を抱えたまま獄中生活をされた石川一雄さんとご家族のために、そしてこの事件で浮き彫りにされた私たち人間の罪を悔い改めるための祈りです。今後、教会と社会との関係についての学びを祈りつつ深めていきたい。

## 関東教区アジア学院ツアー 2025 年度

那須塩原伝道所 マッカーリー・ジョナサン

私は今年、10月31日に開催された関東教区アジア学院ツアーに参加でき、とても嬉しく思いました。教区内から集まった少人数ながら温かい雰囲気の集まりで、学び、交わり、新しい体験を分かち合う一日となりました。

最初に、アジア学院の「コイノニア・ハウス」に集まりました。「コイノニア」とはギリシャ語で「交わり」を意味し、新約聖書では信徒の集まりを表す言葉です。ここでは食事だけでなく、語り合い、学び、祝い、新しい仲間を迎える場として用いられていることを学びました。

その後、教区メンバーでありスタッフでもある江村優子様がキャンパスを案内してくださいました。建物や施設だけでなく、学院の創立、日々の暮らし、そして国際コミュニティとしての課題と工夫についても教えてくださいました。今年は約25か国から約60名が共に生活しており、英語を共通語としていますが、母語とする人は少数です。

昼食は国際色豊かなボランティアとスタッフによる料理をいただきました。スパイシーな味付けに加え、「こんな部位も食べられるの?」という驚きもありました!その後はマラウイ出身の研修科生ヴェさんによるジャム作りと瓶詰めの実演。彼女はこの技術が、農村女性たちが地域の資源(マンゴーやグアバなど)を活用し、家族を支え自立する助けになると語ってくれました。ブルーベリージャムのお土産もいただきました!

最後に、西那須野教会の教会員でもある常務理事・荒川知子様と共に、食と命、そして学院で学ぶ人々の希望と夢について深く学ぶ時間を持ちました。祈りの時をもって一日を締めくくり、アジア学院とのつながりが関東教区の枠を超えて、世界への窓口であることを実感しました。世界中の人々と出会い、夢や信仰を分かち合えるこの場に、来年はぜひご一緒参加しませんか?

## 「埼玉で最初の教会と最新の教会」

報告者 山岡 創

2025年6月30日(月)～7月1日(火)に関東教区開拓伝道協議会が行われた。コロナ禍後、2023年度に再開し、新潟地区、栃木地区と回って、今年度は埼玉地区の教会伝道所を訪れて、伝道の歴史と課題を共にし、分かち合うこととなった。

初日は、2011年に開設した久喜復活伝道所を訪れた。自宅を開放して、そのリビング・ルームで礼拝を行っているとの山野裕子牧師の話に、私が牧している坂戸いずみ教会の開拓当初の様子とその姿が重なった。その部屋に、参加者19名がひしめき合い、山野牧師のお話を伺い、分かち合った。一人の男性教会員が、キリストの愛を信じて救われ、その喜びを胸に、多くの友人に伝道しているとの証しにとても感動した。目下の大きな課題は、山野先生の後継牧師を見つけることのことであった。

その日の夕飯は、教会から歩いて5分ぐらいのところにある野菜カフェ・ビーンズ。山野牧師から紹介されて下見に訪れたとき、以前Youtube動画で見つけ、休日に訪れた店であることに驚いた。

その時に知った余談だが、その店は埼玉でも有名な女性長距離ランナーの実家だった。彼女は仙台育英高校在学時に全国高校駅伝で2度優勝したメンバーの一人。今ではJP日本郵政で活躍している。次女が長距離、駅伝をやっていた影響で、駅伝ファンの私としては嬉しい出会いだった。

2日目は、数名入れ替わりで18名が参加。1878年に創設され、147年目の伝道活動を続けている南埼玉郡宮代町和戸の和戸教会を訪れた。教会内を案内された際に、書庫にある非常に古い、年代物の本棚に、教会の歴史を感じた。礼拝堂に移動し、見上げるとドーム型の高い天井がとても印象的である。三羽善治牧師が長らく牧会をされていたが、その後を継いで、今は佐藤進・さゆり牧師夫妻がこの教会を牧し伝道している。

この教会は、和戸出身の人がキリスト教を信じて地元に帰り、伝道をして教会を生み出すという信徒による開拓伝道によって始まった教会とのことであった。伝道の最前線に立つのは、それぞれの場所に遣わされる信徒であることを改めて思った。

伝道の現場を知る有意義な2日間だった。

林原 淑子

2025年6月6日、群馬地区の高崎教会にて教会婦人会連合第51回総会が開催され、第29期委員会が発足しました。その前の新旧委員顔合わせの時点で、新委員として集まつたメンバーがそれぞれのタラントを活かされ得ることを、互いに感じ取ったと思います。何故私がここにという戸惑いはありながら、これが御心ならば、導きがあるだろうと考えられる委員会でした。7月に大宮教会をお借りして第1回委員会をスタートし、その後の委員会は基本的にZoom開催を試みることにいたしました。その間にも、6月の内に狭山教会にて新任教師オリエンテーションが持たれ、講師のお一人が第29期副委員長の横山由美子さんによる「ハラスメント」についての講演でした。参加者を巻き込む実演型で、リアリティのある研修となりました。また、翌週には林原が中央委員として日本キリスト教会館での二泊の中央委員会に出席いたしました。二日目の各教区報告の議案では、補助書記の担当のため、注意深く聴き込むことになる中、全教区が共に連帯を深めていく行程を味わうことができました。個人的には、現在教区として活動していない京都の方と同室となったことで、特に初日は多少の夜更かしとなりつつも、よき友を得たことを知りました。7月の海の日21日には、大宮教会にて宣教の集いの受付として参加し、賛美溢れる開会礼拝の後のグリズさんのチエロ演奏は、会堂に上がって鑑賞させていただけました。沁みました。月末には第52回総会の会場となる栃木地区の四條町教会に呼んでいただき、会場見学をいたしました。総会参加者を何名とするのが適切なのかも、栃木地区婦人部委員長と話し合え、活気のある準備委員の方々とも意思の疎通が取れました。今回は講師の方は教区で決定し、これまでの地区の役割の一部を教区が担うことにしました。全地区に漏れず、全教区でも課題となっている少子高齢化に対応して、あらゆる分野で合理化できるところは合理化し、どなたでも各委員を担つていいけるような内容に変革していく必要が各所で聞かれました。9月半ばの拡大委員会では、第51回総会会場となった群馬地区からの、非常に建設的な提言が用意されています。私も群馬地区です。そのような節目に立たされて、賜物豊かな教区委員の方々の共にあることを主に感謝しております。